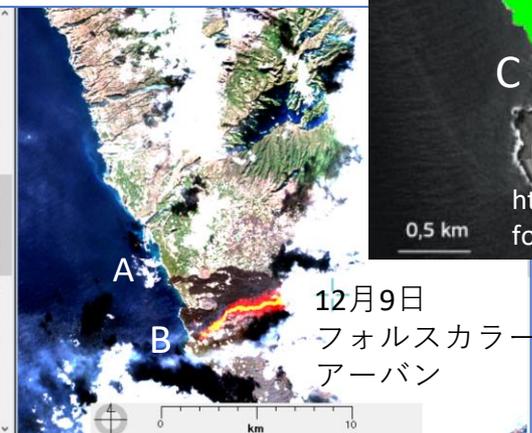
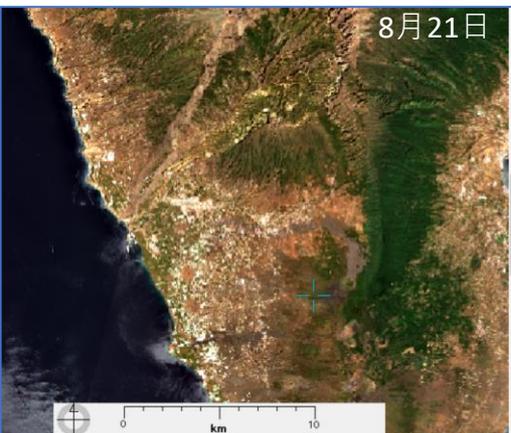
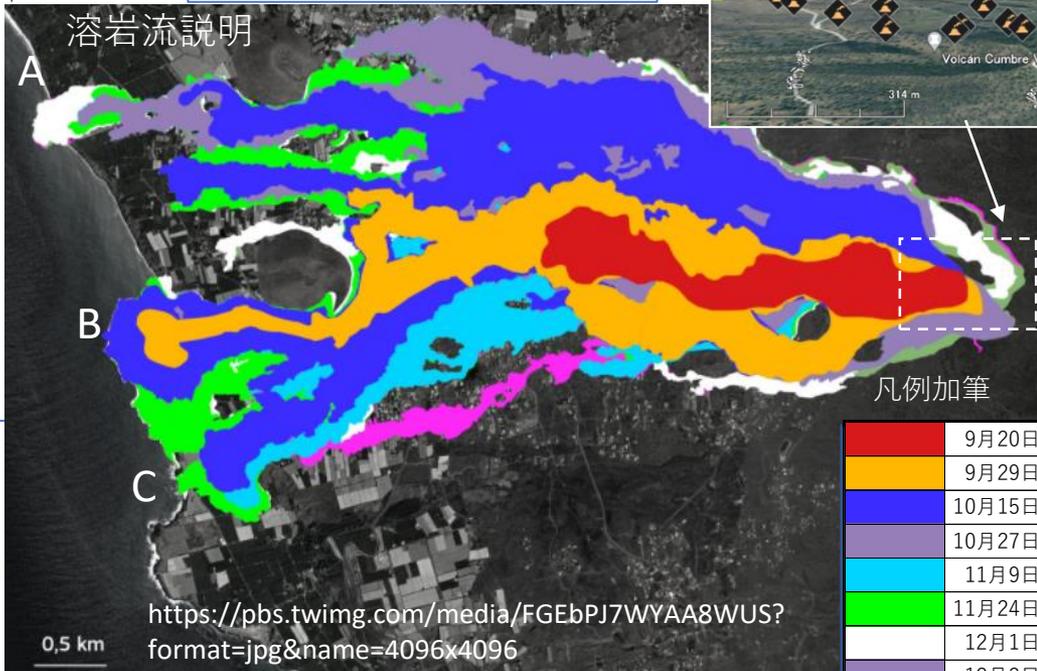




## ラ・パルマ島の81日

9月19日にアフリカ西海岸沖のカナリア諸島のラ・パルマ島のカンブラ・ビエハ火山が噴火して、12月9日まで81日経過しました。12月9日のセンチネル2観測画像は、噴火火口群こそ確認できませんが、溶岩流の被害地帯が確認できます。ここでセンチネル衛星群の観測記録を一覧にしました。

ラ・パルマ島の皆様の健勝を祈念するばかりです。



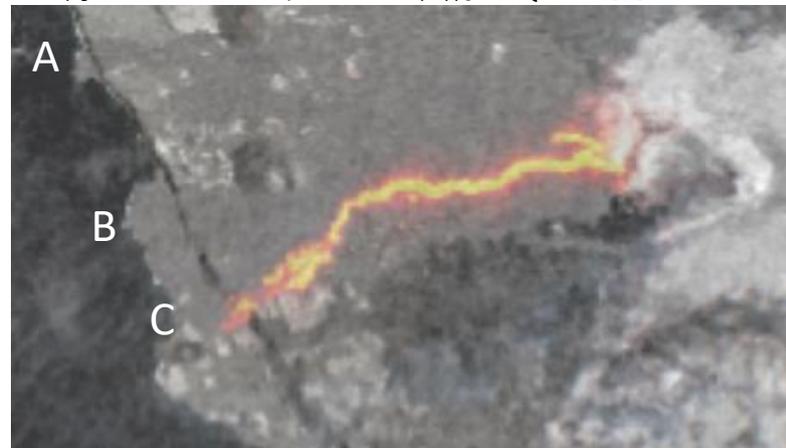
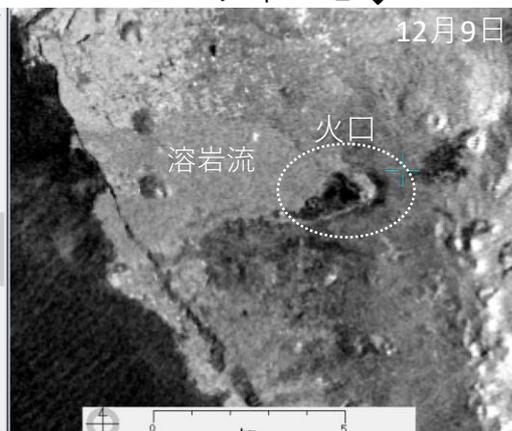
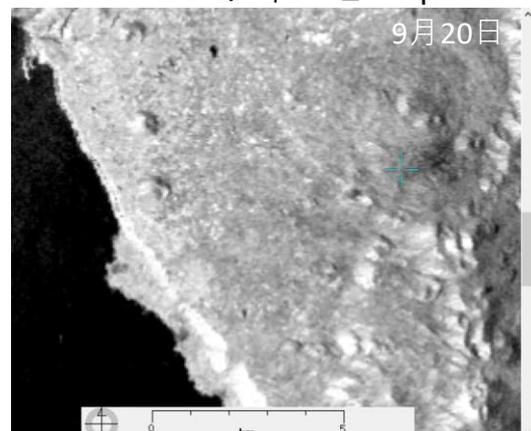
12月7日までに溶岩流は推定11.82km<sup>2</sup>の広さまで広がっているといえます。12月8日夕方までの24時間で約50回の地震がありました。

\*凡例等修正  
2021年2月14日

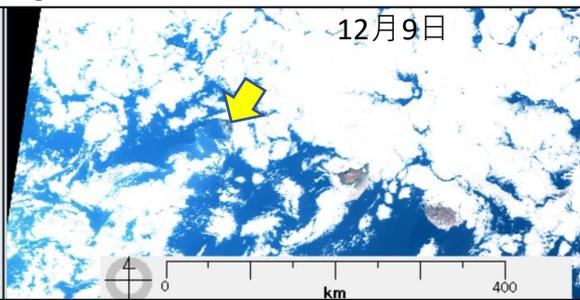
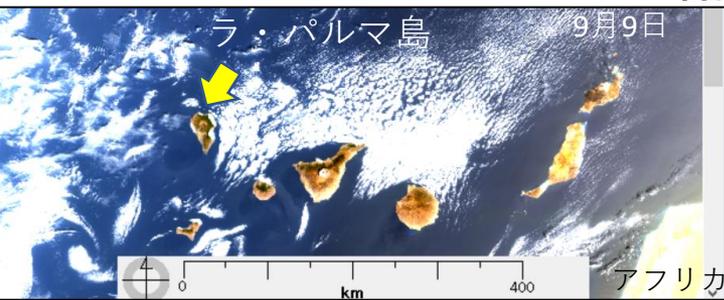
12月9日のセンチネル1と2画像をQGISで重ねる

センチネル2 ↑

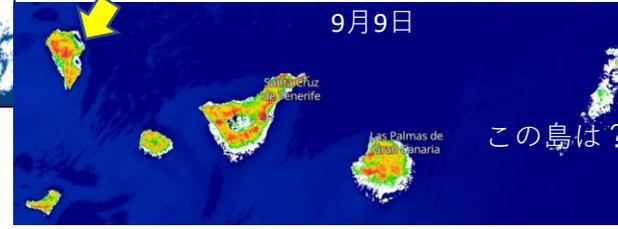
センチネル1 ↓



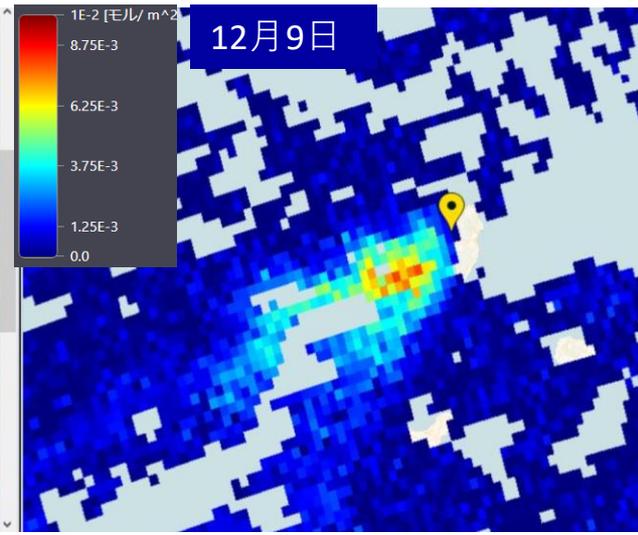
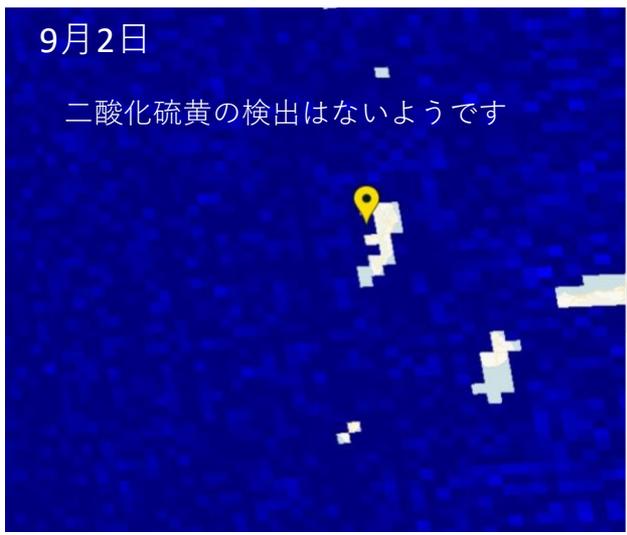
# センチネル3 カナリア諸島



センチネル3は、陸上クロロフィル指数(OTCI)で植物が元気に育っている様子を調べることができます。赤(低)から濃い緑色(高)までの範囲内で調べます。ラ・パルマ島に雲がかかっていない日を調べたいですね。



## センチネル5P 大気中の二酸化硫黄の広がり



12月7日まで、二酸化硫黄放出量は「高い」レベルで持続し、1日あたり1,000～29,999トンの値を示していたそうです。(NATIONAL MUSEUM OF NATURAL HISTORY SMITHSONIAN INSTITUTION)

2014年9月27日に噴火し多くの被害を出した御嶽山でも火口から一日あたり500～1500トンの二酸化硫黄ガスが大気中に放出されていました(気象庁地震火山部火山監視・情報センター 2014)

また桜島については、2007年5月23日～2008年2月15日の観測データがあります。(桜島火山における二酸化硫黄放出観測 鹿児島地方気象台予報課)

それによると毎日350～3800トンの二酸化硫黄の放出が記録されています。ラ・パルマで観測されている二酸化硫黄の放出は大量です。

ESAは2021年10月6日の二酸化硫黄濃度の観測結果を左図のようにまとめています。  
[https://www.esa.int/ESA\\_Multimedia/Images/2021/10/Sulphur\\_dioxide\\_concentrations\\_on\\_6\\_October\\_2021](https://www.esa.int/ESA_Multimedia/Images/2021/10/Sulphur_dioxide_concentrations_on_6_October_2021)

巡視船上から溶岩流が海岸に達している場所の沖から火口方向を撮影



<https://pbs.twimg.com/media/FGQPisNX0AkWp0V?format=jpg&name=large>

大西洋上に広範囲に二酸化硫黄が広がっています

